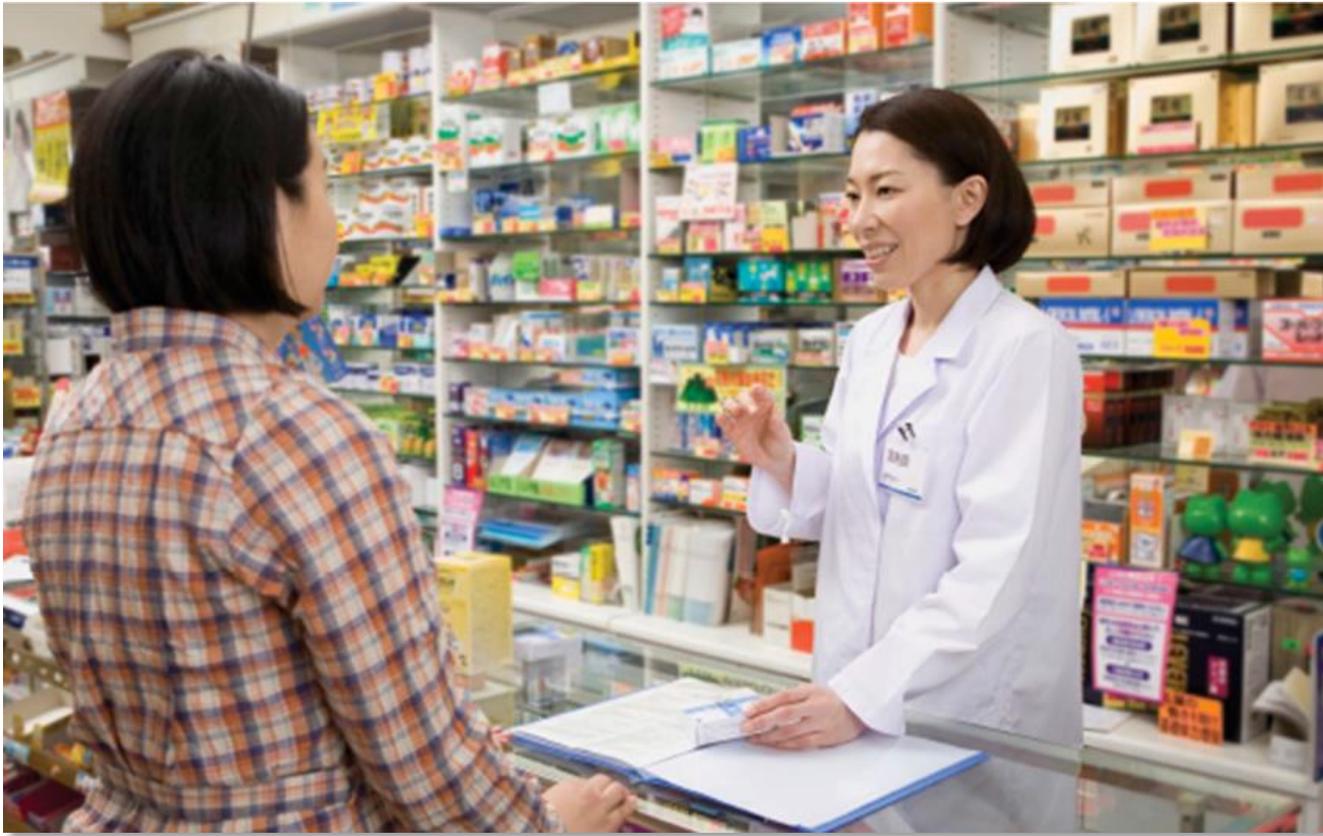


Consumer Education and Community Pharmacy in Japan



Toshiaki Yoshino

Chairman of Japan Self-Medication Industry

いま日本は空前の健康ブーム！



健康ブームではあるけれど...

一方では、「健康無関心層」が国民の7割近くもいる！？

* 参照: 2010年度 調査 (有効回答1,914名)

筑波大学大学院 久野研究室調査



注: 「健康無関心層」とは、健康維持のための行動ができていない人たち

日本では、健康寿命延伸のために、**Self-Medication**が国策に！
しかし、その普及には「健康無関心層」への働きかけが重要！！

【各地で展開される健康イベント】



大きな課題は、健康に関心のない人たちは健康情報に反応しないこと。
どうやって、彼らに、Self-Medicationを働きかけるか！？

そのInitiatorになるのが、
身近なところにある薬局・ドラッグストアの薬剤師。



ドラッグストアに
1ヶ月に1回以上行く人が**80%**
2週間に1回以上行く人が**60%**
1週間に1回以上行く人が**25%**

参照:2005年度JACDS調査(N:2,848人)

Self-Medication 振興のための 3つの大きな動き !

1. 義務教育で「くすり教育」がスタート

2012年から中学校で、
2013年から高校でスタート。
地域によっては小学校でも実施。
学校薬剤師が大きな役割を担う。



2. 今年から薬局やドラッグストアの店頭で血液を使った簡易検査が解禁・スタート

併せて、スイッチOTC化(検査薬含む)も
進展。



3. 政府内で、OTC医薬品購入に対する所得控除制度創設に向けて本格的に議論がスタート



3つの大きな動き！により、

Self-Medication振興に向けて薬剤師の役割が拡大！



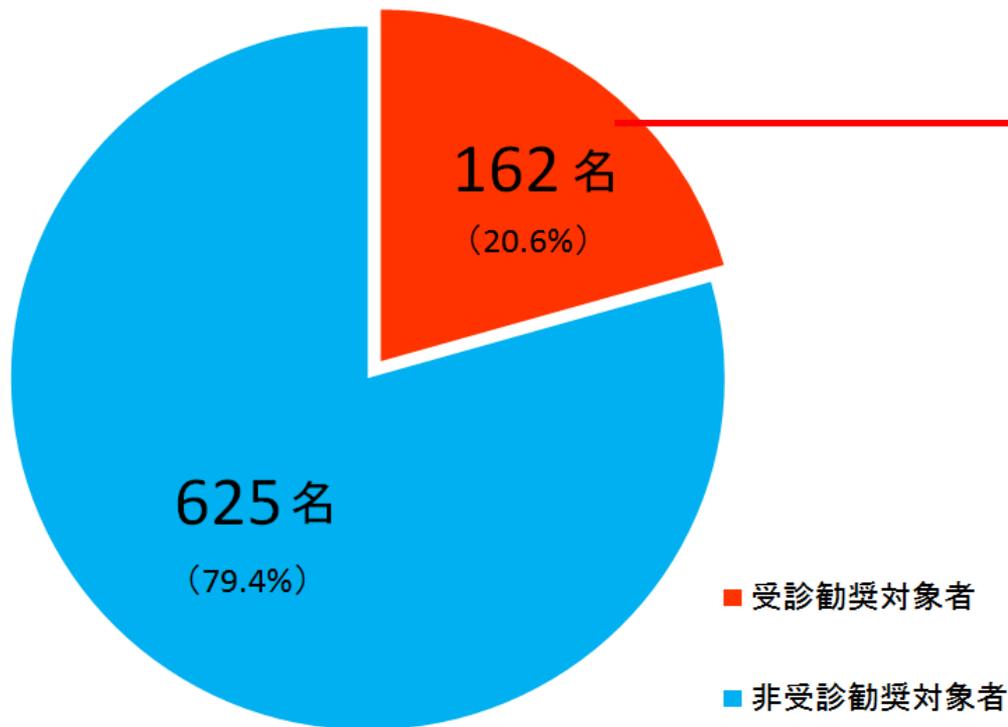
薬局・ドラッグストアへ国民の 背中を押す3大施策

1. くすり教育
子供の時から正しい
Self-Medicationを学ぶ
2. 薬局やドラッグストア店頭での
簡易検査
スクリーニングと受診勧奨
3. OTC医薬品購入に対する
所得控除(検討中)
購入金額の2~3割が国民へ
還付(経済的インセンティブ)

事例紹介：薬局店頭での糖尿病簡易検査では、 沢山の糖尿病予備軍の発見と受診勧奨が実現！

2014年1月～8月末 東京都足立区の薬局10施設

糖尿病簡易検査
受検者：787名



実際の受診者数
約40名 (25%)



地域が一体となって健康寿命を伸ばしていく取り組みへ keyは、Self-Medication



Thank you very much
for your attention.